

# ふるさとファイル

展示コーナーだより  
第27号  
平成18年7月  
生涯学習課文化財係



## 戦時下の学校生活

展示期間

平成18年7月4日(火)～10月1日(日)

※図書館「戦争と平和展」開催期間中は、一部、展示内容が変わります。

中国での戦線の拡大につれて、村の日常生活は、しだいに戦争の影響を大きく受けるようになり、それとともに学校も戦争を銃後で支える場としての役割を増していきました。

今回の展示コーナーでは、戦争の影響がしだいに学校生活に浸透していくさまを「神足月報」の記事や当時の写真を通じて紹介します。

### 神足月報に見る学校生活

「神足月報」は「月報をして村発展の羅針盤たらしめん」と、昭和10(1935)年から16年にかけて神足小学校の教師らによって編集されたもので、新神足村全戸と戦地に赴いた地元出身の兵士のもとに届けられました。

主に神足小学校や役場、各種団体の活動と村内のできごとが記され、「上海陥落」「徐州陥落」といった戦果を知らせる記事のほか、戦死者墓参、皇軍武運長久祈願、勤労奉仕など、戦争と密接に関連した行事が散見されます。戦地の兵士にあてた作文や出征兵士からの手紙もたびたび掲載されるなど、当時の学校や村の雰囲気的一端を知ることができます。

### 学芸大会

(『神足月報』昭和15年5月号)

小学校や村、国防婦人会などが主催する学芸大会が行われました。児童たちが演じる劇には、「お父さんは出征中」「軍国の母」など、戦時色を多分に盛った演目が目立ちます。





## 戦争の浸透と学校行事

昭和12(1937)年、日中戦争開始直後の閣議で国民精神総動員実施要綱が決定され、学校は村や青年団、その他の組織とともに戦争を銃後で支える重要な役割を担うことになりました。その一環として、神社・皇陵への参拝、出征兵士・英霊の送迎、戦死者への墓参、応召兵及び留守家族の慰安、ラジオ体操の奨励、勤労奉仕など、さまざまな行事が行われ、これらを通じて国策の浸透と国民統合の強化、戦争への自発的協力心の育成が図られました。



長岡天満宮での渡満兵武運長久祈願  
(昭和7年、神足小学校所蔵資料)

神足小学校の児童たちが満州へ出征中の兵士の武運長久を祈願している様子。昭和13・14年には、青年団の会員らが武運長久祈願として石清水八幡宮や成田不動尊(大阪府寝屋川市)を参拝しています。



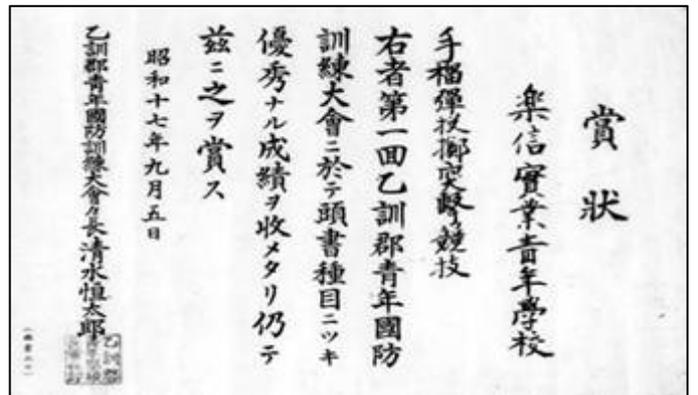
留守家族慰安会 ～軍国の乙女～  
(昭和14年、神足小学校所蔵資料)

遺家族慰安会での一幕。詳しい内容は不明ですが、小学6年生による「軍国の乙女」が演じられました。このほかにも留守家族や戦死者遺族を招待して体育大会が催されました。



勤労奉仕風景 ～道路清掃奉仕～  
(昭和14年、神足小学校所蔵資料)

学校では勤労奉仕団を編成し、月に1度、神社仏閣および道路の清掃を行ったり、農繁期には留守家族や戦没者遺族の家に農作業の手伝いに出かけています。



乙訓郡青年国防訓練大会賞状  
(昭和17年、長法寺小学校所蔵資料)

楽信実業青年学校が第1回乙訓郡青年国防訓練大会で表彰を受けたものです。手榴弾投擲突撃競技といった種目から当時の世相が伝わってきます。



全校合同体操  
(昭和8年ごろ、神足小学校所蔵資料)

当時、体育・運動は国家使命に必ず健全有為の資質を養うとして奨励されました。後方の校舎は、昭和9年の室戸台風で破壊される前のもの。